

**CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版**  
**中央日本土地建物博多駅前3丁目プロジェクト新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.39</b>				<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.9</b>	0.15				<b>3.9</b>
1.1 室内騒音レベル		騒音レベル40で計画		<b>4.0</b>	0.40	<b>4.0</b>			
1.2 遮音				<b>3.8</b>	0.40				
1 開口部遮音性能		T-1で計画		3.0	0.60	5.0			
2 界壁遮音性能		D-45で計画		5.0	0.40	4.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-							
1.3 吸音		床・天井に使用		<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>			
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.1</b>	0.35				<b>3.1</b>
2.1 室温制御				<b>3.3</b>	0.50				
1 室温		-		3.0	0.38	3.0			
2 外皮性能		U値(W/m <sup>2</sup> K) 窓01.8, 屋根0.3, 外壁0.9		3.0	0.25	5.0			
3 ゾーン別制御性		冷暖同時型を採用し、ペリメーターとインテリアで分けて室内機を配		4.0	0.37				
2.2 湿度制御		-		<b>3.0</b>	0.20				
2.3 空調方式		-		3.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.2</b>	0.25				<b>3.2</b>
3.1 昼光利用				<b>2.4</b>	0.31				
1 昼光率		-		2.0	0.59	3.0			
2 方位別開口		-				3.0			
3 昼光利用設備		-		3.0	0.41	3.0			
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30				
1 昼光制御		各バルコニーに庇を設けることで日射遮蔽を計画		4.0	1.00	3.0			
3.3 照度		全般照度700lxで計画		<b>4.0</b>	0.15				
3.4 照明制御		-		<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.0</b>	0.25				<b>4.0</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質		床・天井・壁にF☆☆☆☆の材料を採用		4.0	1.00	5.0			
4.2 換気				<b>3.9</b>	0.30				
1 換気量		-		3.0	0.34				
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率50cm <sup>2</sup> /m <sup>2</sup> 以上で計画。		5.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		給排気を6m以上離して計画。		4.0	0.34	5.0			
4.3 運用管理				<b>4.5</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視		CO <sub>2</sub> センサーにより空気室を適正に維持する計画		4.0	0.50				
2 喫煙の制御		喫煙所を設けることで非喫煙者が煙に曝されない計画		5.0	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>4.2</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.2</b>	0.40				<b>4.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.6</b>	0.40				
1 広さ・収納性		執務スペース8m <sup>2</sup> /人を想定		3.0	0.33	4.0			
2 高度情報通信設備対応		80VA/m <sup>2</sup> を基準容量とし光ファイバーをビル内に引き込む計画		4.0	0.33				
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準を満足させる計		4.0	0.34				
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30				
1 広さ感・景観		事務室の天井高さを2.8m以上で計画		4.0	0.34	4.0			
2 リフレッシュスペース		テラスをリフレッシュスペースとして計画。2Fに自販機設置。		5.0	0.33				
3 内装計画		1Fエントランスに木仕上げを計画。パース作成済み		5.0	0.34	5.0			
1.3 維持管理				<b>4.5</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		エントランスに泥除けマットを設置し、汚れの持ち込みを防ぐ		5.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		維持管理用機能の確保に寄与する取り組みを7項目達成		4.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>4.1</b>	0.30				<b>4.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>5.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		地震波を1.5倍した時刻歴応答解析による検討		5.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		制震・免震装置を導入		5.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		通気管、汚水管にVPを採用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		2.0	0.20				
2.4 信頼性				<b>3.8</b>	0.20				
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		節水器具、緊急排水槽の設置、中水利用を計画		4.0	0.20				
3 電気設備		-		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		機械・配管の耐震支持を耐震クラスAで計画		4.0	0.20				
5 通信・情報設備		浸水時の対策を講じ、通信障害等の非常時に対応できる計画		5.0	0.20				

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>4.4</b>	0.30	-	-	<b>4.4</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>4.6</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高4.2mで計画	5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.207	4.0	0.40	4.0	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	床荷重4900N/m <sup>2</sup> で計画	<b>5.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.8</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	シャフトスペースを乾式壁で計画	4.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	電線管路を構築し配線のやり替えが可能な計画とした	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	配線管路を構築し、配線のやり替えが可能な計画とした	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	屋上階の設備スペースに将来設置可能なエリアを計画	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.31</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>	高木は多様な色形状があるように全て異なる樹種を選定した。	<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>	沿道の賑わいを生むアートのある空間を提供します。	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	公開空地にイベント開催可能な設えを計画。	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.9</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.3</b>
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>	庇を設け窓面積を極力小さくした計画	<b>4.7</b>	0.20	-	-	<b>4.7</b>
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	自然通風を積極的に取り込める計画	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>	外皮負荷の低減、最低限の空調能力で計画	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		<b>2.5</b>	0.20	-	-	<b>2.5</b>
	集合住宅以外の評価		<b>2.5</b>	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	主要な用途別に計量できるよう各種メーターを設置	4.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	節水器具を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>4.5</b>	0.60	-	-	<b>4.5</b>
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	地下階、1~2階について既存躯体を利用した計画	5.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	骨材、セメント、リサイクル鋼材についてリサイクル材を採用	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ウッドデッキ、合板、床材にリサイクル材を採用	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	トイレは全てユニットトイレを採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率70%	<b>4.2</b>	0.33	-	-	<b>4.2</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
	2.1 大気汚染防止	-	-	-	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	<b>3.0</b>	0.67	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>3.5</b>	0.33	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	シェアサイクルポートの設置	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	-	-	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	1.00	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	